

# 日本海側におけるエネルギー供給態勢の 整備について

【担当省庁】経済産業省、資源エネルギー庁

我が国のエネルギーの供給態勢は太平洋側に偏っており、巨大地震等により太平洋側の施設が被災した場合、住民や産業にはかりしれない影響を及ぼすことが懸念される。

エネルギーの供給態勢の整備は国の責務であるが、リダンダンシーの確保の観点から、また、日本海沿岸地域の経済の活性化の観点からも、日本海側のエネルギー供給態勢の整備は有意義である。

こうした観点から、関西唯一の日本海側拠点港である京都舞鶴港がある京都府北部地域において、以下の措置を講じていただきたい。

## 日本海における海洋エネルギー資源調査・採掘技術の開発

日本海におけるメタンハイドレート等の開発に向けた本格的な資源調査を推進するため、広域調査や地質サンプル調査の海域を京都府沖へ拡大していただきたい。

特に、日本海側に多く埋蔵するとされる「表層型」メタンハイドレートについて、採掘の技術開発を一層促進し、リダンダンシーの確保の観点から、商業生産の実現目標年次を定めていただきたい。

## 京都舞鶴港へのLNG受入基地及び広域パイプライン整備

日本海側のエネルギー供給体制を整備することは大規模災害時におけるリダンダンシーの確保にとって不可欠であり、国土強靱化対策としての日本海国土軸形成の視点も踏まえ、京都舞鶴港等におけるLNG受入基地の整備や、京都舞鶴港等をハブとして京阪神大都市圏や日本海沿岸地域に伸びる広域パイプラインの整備をしていただきたい。

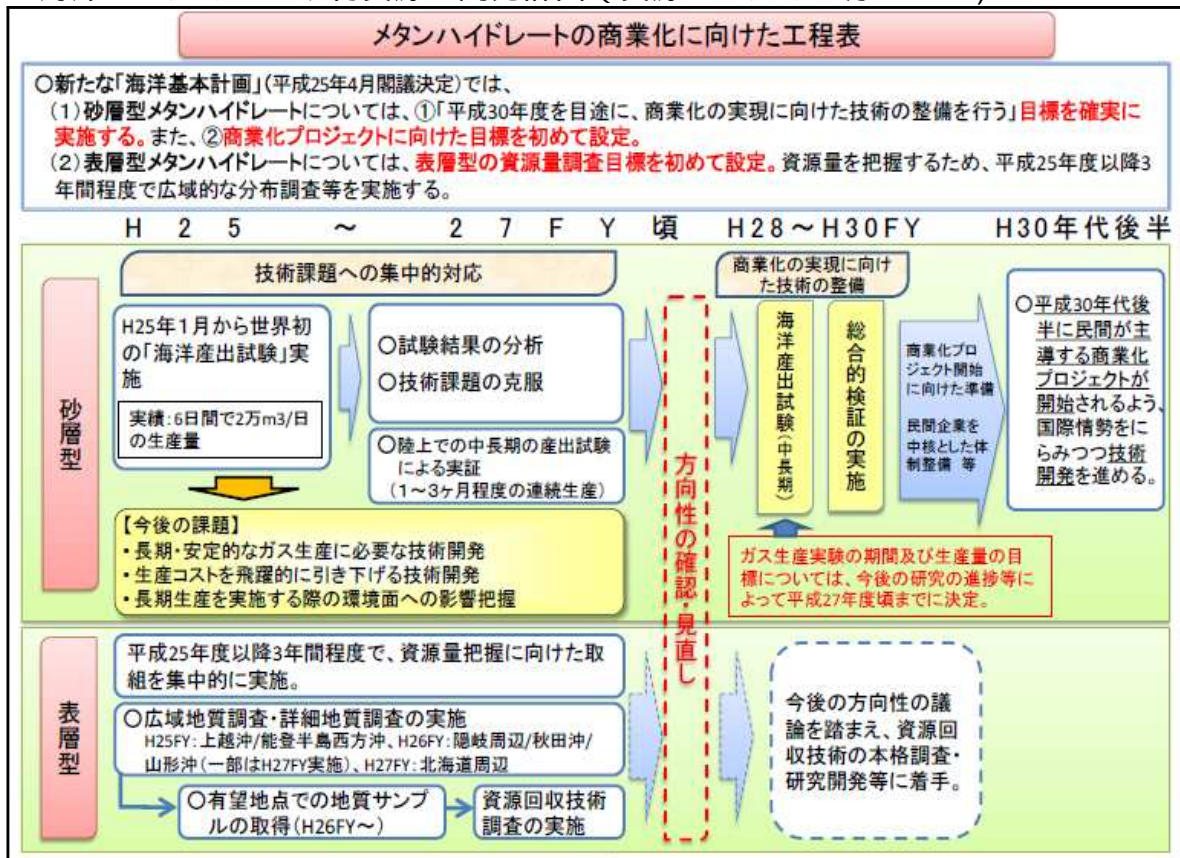
## 既存発電所（宮津火力発電所）の高効率化・再稼働の支援による有効活用

国全体としてのエネルギー確保の観点から、関西電力宮津火力発電所（宮津エネルギー研究所）など長期計画停止中の発電所も含めた既存発電所の有効活用を進めるため、発電設備の整備や高効率化に対する支援をいただきたい。

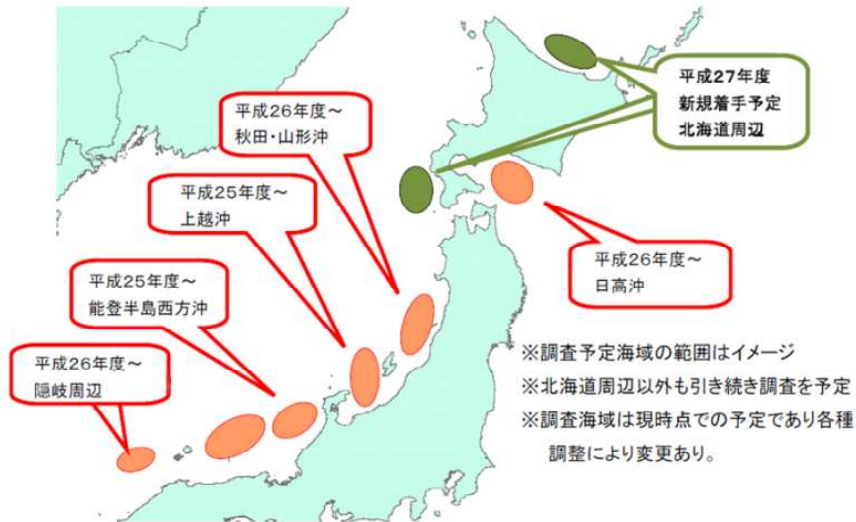
### 【現状・課題等】

メタンハイドレートに関する国の調査の現状

海洋エネルギー・鉱物資源 開発計画（資源エネルギー庁H25.12）



メタンハイドレートに関する日本海側でのサンプル調査の流れ



京都府周辺の天然ガスインフラ整備状況

赤線のような日本海沿岸及び日本海側と太平洋を結ぶ天然ガスパイプラインの整備が必要



宮津火力発電所（エネルギー研究所）

現在計画停止中

	1号機	2号機
運転開始	平成元年 8 月	平成元年 12 月
定格出力	37.5 万 kW	37.5 万 kW
燃 料	重油・原油	重油・原油

【京都府の担当課】

環境部 環境・エネルギー局 エネルギー政策課 075-414-4297